

「もののしくみ研究室」アンケート調査結果報告

調査テーマ	「もののしくみ研究室」をはじめ前と現在の生活や勉強の取り組み方への変化
調査目的	「プログラミング学習」をすると、論理的思考力、問題解決力、表現力などいろいろな力がつくといわれているが、それは本当なのか。 「もののしくみ研究室」に通う子ども、保護者がどう感じているかを調べるためにアンケートを実施。
調査期間	2018年3月1日～3月31日
調査対象	全国の「もののしくみ研究室」会員の保護者
平均受講期間	10.7ヶ月
調査方法	塾・教室を通してアンケート配布と回収
有効総数	567件

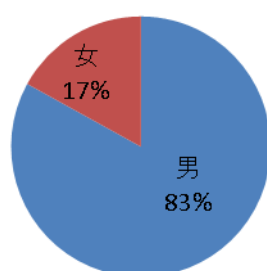
※アンケートの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます

■会員の属性

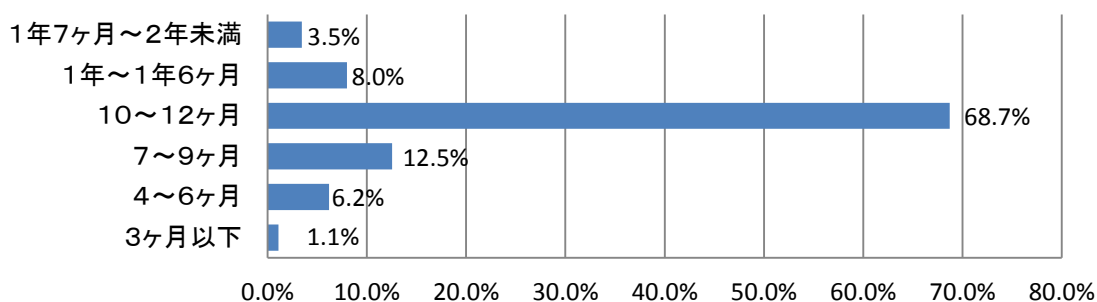
【学年】

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他
12	29	130	146	132	81	18	10	1	0	1	0	7

【男女比】

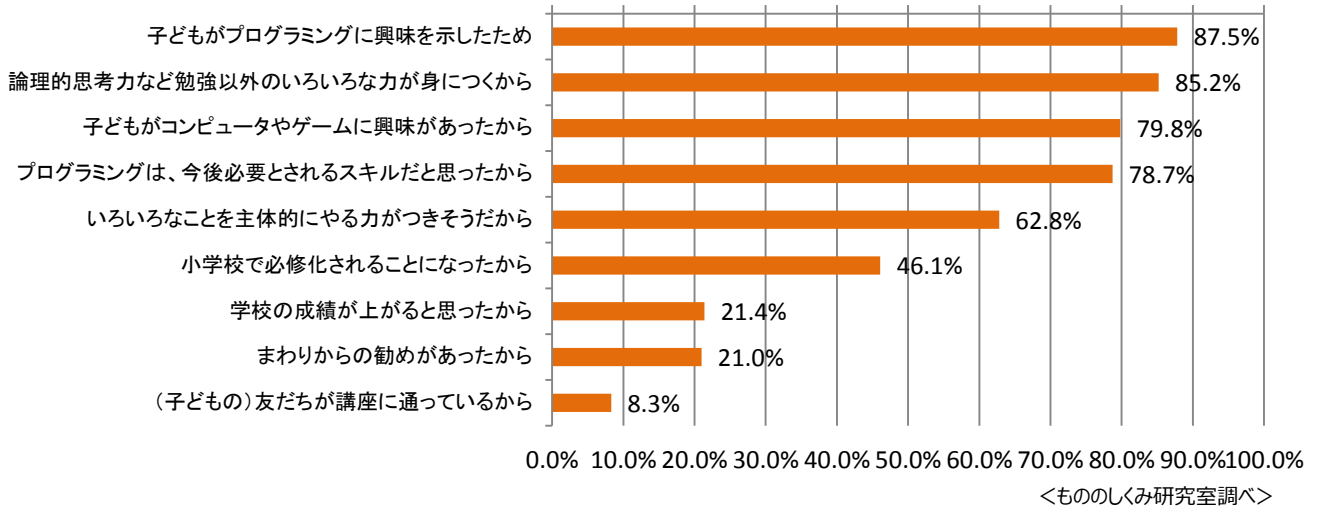


【受講期間】



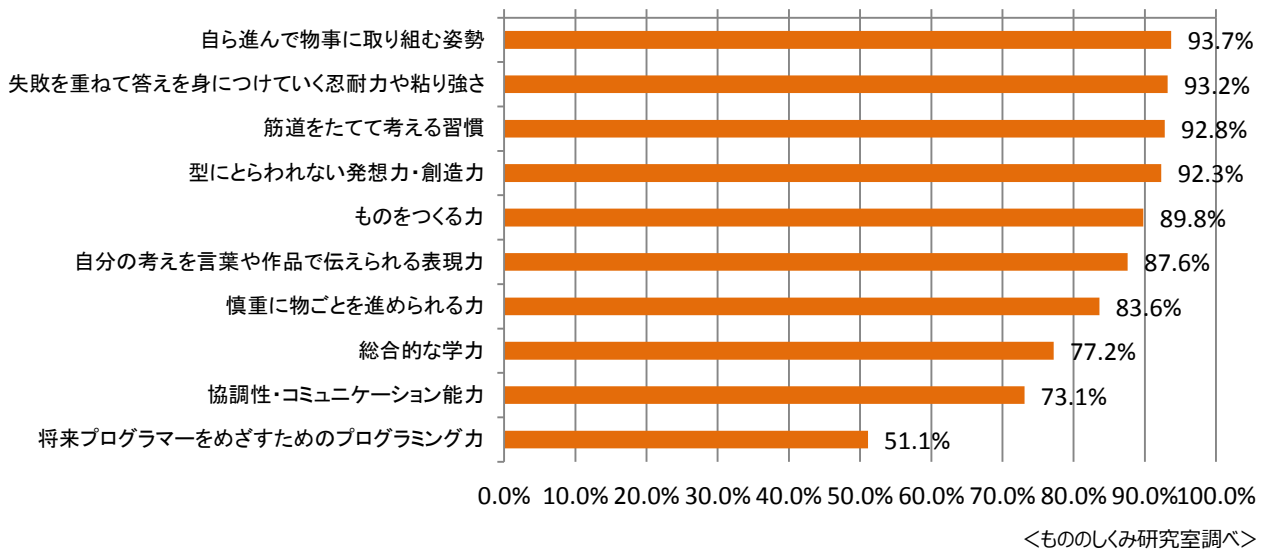
「もののしくみ研究室」受講のきっかけや、プログラミング学習で身につけてほしい能力についてお聞きしました

■ お子さまにプログラミング教育をさせようと思ったきっかけを教えてください



2020年度より小学校でプログラミング教育が必修化されますが、そのためにプログラミング教育をさせようと思った保護者の割合は、半数に満たないという結果でした。「子どもがプログラミングに興味を示したため」が87.5%と最も高く、受講に関しては子どもの意向が強かったものと思われます。

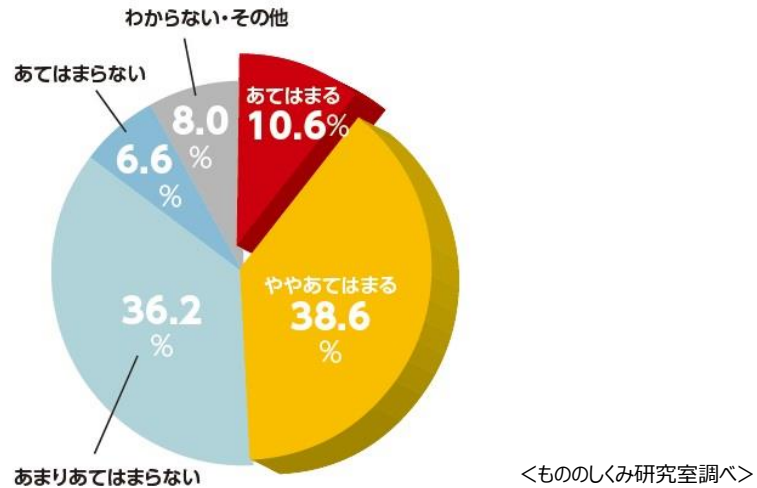
■ 「もののしくみ研究室」で、お子さまに最も身につけてほしいと思う能力は何ですか



プログラミング学習でお子さまに身につけてほしいと思う能力は、何かを創造したり表現したりする力や、物事に粘り強く取り組む姿勢など、プログラミング力以外の能力に期待が集まっています。

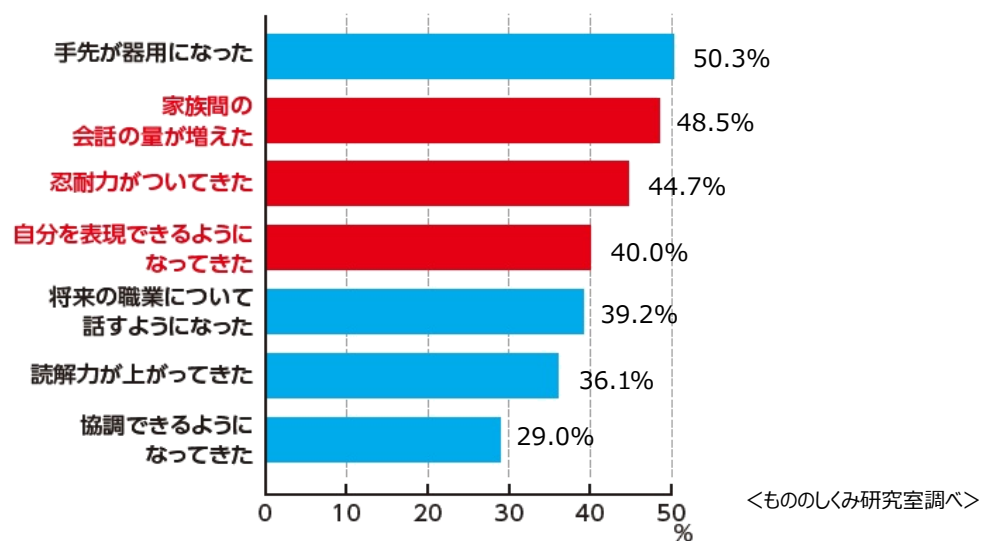
「もののしくみ研究室」をはじめる前と現在で、生活や学習への取り組み方の変化についてお聞きしました

■ 勉強や物事について深く考えるようになった



はじめてわずか 1 年で、半数が「勉強や物事を深く考えるようになった」と感じています。身近にあるを知り、そのしくみを学習し、自らがロボットを組み立て、プログラミングを行いながら試行錯誤を重ねることで、自然と物事について深く考えるようになったのではないのでしょうか。

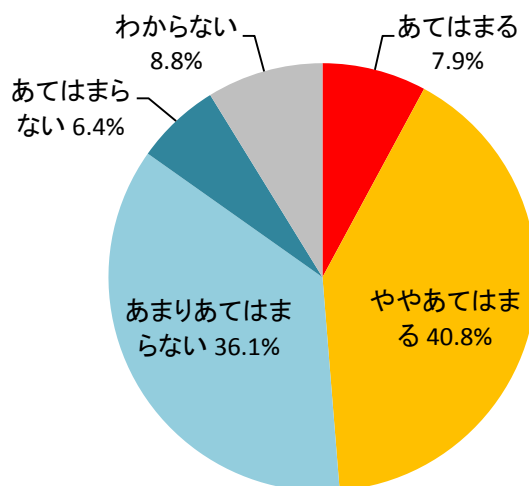
■ はじめてから 1 年後の子どもたちの変化



はじめてから 1 年後の子どもたちの変化では忍耐力・表現力など、これからの社会を生き抜く大切な力が養われていることがわかります。「家族間の会話の量が増えた」というのも、身近なものや興味があるものがテーマとなり、保護者と一緒に考えたり話したりするようになったからかもしれません。

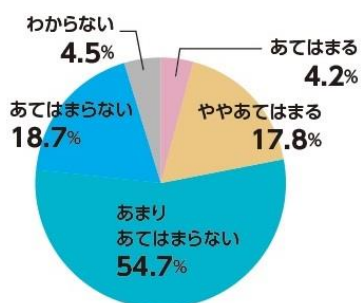
勉強方法や学びへの興味・関心、成績の変化についてお聞きしました

■ 勉強や物事に集中できるようになった



<ものしきみ研究室調べ>

■ 勉強時間が増えた

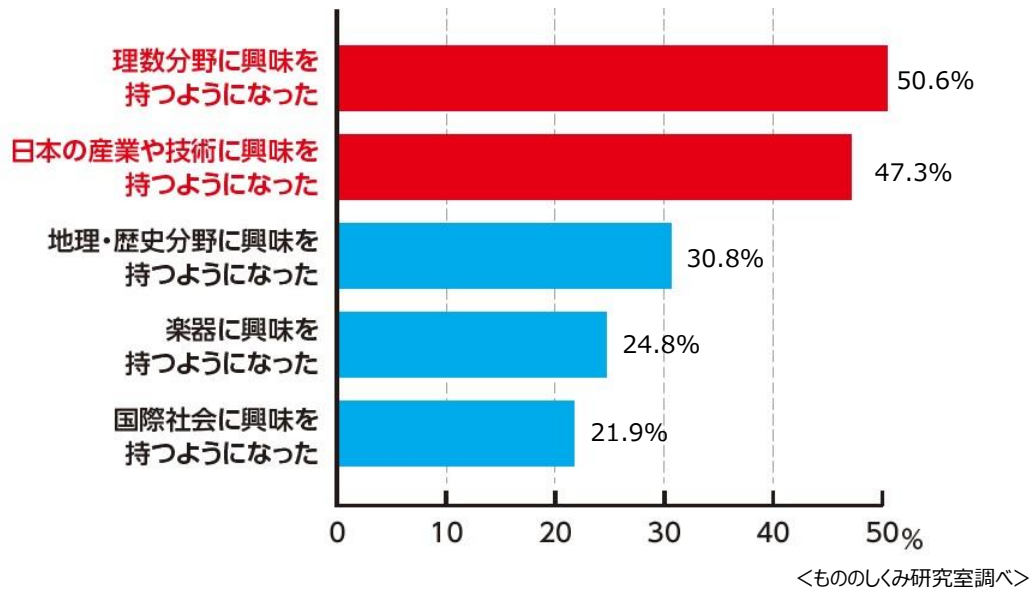


■ 勉強方法が変わった



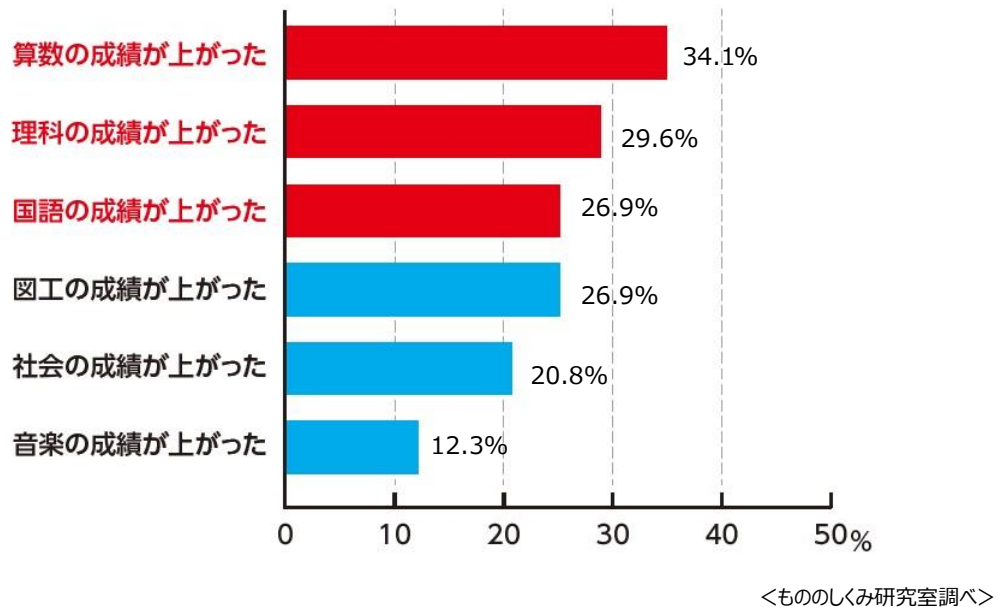
勉強時間や勉強方法にあまり変化はないものの、おおよそ 2 人に 1 人が「勉強や物事に集中できるようになった」と回答。次の質問の興味・関心とあわせ、成績の変化に繋がっているのかもしれない。

■ さまざまな分野への興味・関心の変化



理数分野・日本の産業や技術に興味を持ったという受講生が多くいました。これは「ものづくり研究室」のテキストにちりばめられた、科学分野・図形やグラフを用いた読解・豆知識・我が国の工業生産を強く意識した企業インタビュー記事などが、興味・関心に影響を与えていたのかもしれない。

■ 成績の変化



成績にも少しずつ効果があらわれ始めています。興味を持ったという回答が多かった理数分野の成績だけでなく、国語の成績にも変化が見られます。実際、学習塾の先生たちからも「読解力がついた」という声が頻繁に上がっています。